



浪

拂方清納戸
入

庫文閣内			
一五二函	三九二冊	三二五九號	和書類
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 32569
冊數	394 (255)
函號	152 121

共五



安永元夜年十月十日

拂方清納戸

石部屋敷彦次郎

大目番小路徳半守組

二百俵石部七郎義祐

後三百石

安永六万五年十月廿九日

種姫君

沙部屋敷の拂方清納戸と勢一とて白浪
とて後々

安永八万五年十月廿五日一沙司と

勢一とて白浪とて後々

天明元丑年十月廿七日一沙司と

勢一として白浪と云々

天明三年十月廿七日一書用と

勢一として白浪と云々

天明四年三月廿六日海音名

勢一の二百俵かへ一奉

天明五年十二月廿九日

種彦君乃し方

し縁女様

し那彦のし方し用と勢一として白浪

と云々

天明七年六月廿二日

將軍 宣下のし用と勢一として

白浪と云々

同年十二月十二日

種彦君

し縁女様

蓮光院君し用と勢一として白浪と

云々

寛政元年十一月九日

し其所のし用と勢一として白浪と

云々

寛政元年二月廿四日納戸

安永元辰年十月廿八日

宝曆六年三月廿五日

拂方納戸

松原小作屋の奉清惣領
小菅清徳坊三右衛門左衛門

署名 松原小作屋

天明元辰年十月廿八日

種作表

御船屋江流方の清用と替りて方何也

とて白浪坂と改也

天明三年十月廿八日

替りて方何とて白浪坂と改也

天明六年十月廿八日

種作君

沖原女

蓮光院君の湯用と替りて芳何

〜〜白根女と何

天明七年十二月十日

種作君

沖原女

蓮光院君の湯用と替りて芳何

〜〜白根女と何

寛政元年十二月十日

沖原女

種作君

蓮光院君の湯用と替りて芳何

〜〜白根女と何

寛政三年十二月十日

彰君下向橋相礼湯用と替りて

〜〜白根女と何

寛政元年十二月十日

勢 沖原女

安永三年八月十日

明和二年八月十日海月

拂方沖納戸

能登新藏頼利養子
大藏所殿近習番
百奉儀能登新之丞頼定

同日替札
作と奉
百奉儀と是

安永三年八月十日
十二月廿六日
辞入大藏所
支配

安永二年八月十日

拂方沖納戸

言倣三輪左衛門時

三輪十左衛門久恒養子
大津藩永井信謙守組

後十左衛門

安永六年申年二月十七日新沖藩石尾七左衛門組

安永元年二月廿日

明和六年四月廿日家督

拂方沖納戸

深谷忠吉清和任兼領
小菅清組堀田長光支配
言依 深谷忠吉清和任兼領

天明六年三月廿日新沖納戸任兼領

安永元禄年八月七日

元文二年九月十日分知

拂方清納戸

本系頼母弘正三男

小當精祖收野内区支配

三音名 本系十郎清親白

改頼母

天明元禄年六月二日辞入水野清公支配

寛政十年八月廿九日七奉

安永元年閏十月十六日

拂方沖納戸

如能長尺儀の法庸養子
小常精組神尾義徳守支配
元永者
正百儀如能七郎宗実系明

天明元五年十月廿七日

種振表の拂方

沖那屋に拂方沖納戸と替りて

やせしとて白銀ととらる

天明三年九月廿二日沖納戸

天明六年十月十日

種振表沖納戸入沖納戸と命せり

天明七年十二月廿七日

種物表記簿(汚染入札汚用と

幣りて方りてとて白銀十別と

あらうとてとてとてとて

寛政二戌年十二月廿日汚細新

汚用の事と帝に年号せ

とて白銀十ととと

寛政二戌年十二月廿日汚廣表番の記

同年九月大奥向長局の官帳れ

定数ととと命せりて

寛政七卯年九月晦日大奥向表

汚帳新一の汚殿水札部屋以

修補せりて汚用と幣りて方りて

とて黄金板ととととととと

寛政六寅年十月六日官帳と

とととと

義書れ汚方汚官表汚利と幣りて

方りてとて白銀十ととと

寛政七卯年十二月六日西城と幣せ

らうと汚用と命せりて

同年四月廿六日大奥向と幣せりて

汚用小帯に方りてとて白銀十と

ととととと願ひた

寛政八辰年十月十三日汚帳と免

小菅清久入らと此後孫高支配とあり

安永八由年正月廿六日

安永九年正月十日家納

榑方沖納戸

本村孫高即元春美子
小菅清組孫高支配
吉原名 本村孫高元美
軍手余

天明三年十月十日

種振若

沖納戸は沖方の沖納と惣中々々

方河内とて白銀校とあり

天明六年十月廿九日同沖納と

惣中々々方河内とて白銀校とあり

天明七年十月十日

種非君

所縁由縁

蓮光院君に法用と替りて芳何り

こつて白銀枚と替り

天明八年十二月十九日

非君に法方法増増の法用と合せ

寛政元酉年二月十六日法増増

法用と替りて芳何りて白銀

枚と替り

同年十一月九日

御基所

淑非君

蓮光院君の法用と替りて芳何り

こつて白銀枚と替り

寛政元酉年二月十日 法増増

安永六浦年三月八日

安永三年分七月家督

拂方沖納戸

馬升七官所親定養子

小書法組奥田養港守支配

音依 馬升伴次所義陳

天明七年十月十二日

種作君

沖縁女係

蓮光院様乃沖用と努りて方り

〜々白銀枚と給り

寛政元酉年十月九日

沖基所

淑非君

蓮光院君の御用と替りて方り

白銀三枚

寛政三年閏二月十日 御用 沖納戸

安永八申年八月晦日

安永八申年十月廿五日

拂方沖納戸

國領在野の忠利養子

小菅清組外山城守支配

言者 國領法皇御忠親

改法院書

安永八申年十月廿五日

種非君

沖船屋に法方乃御用と替りて

方りて白銀三枚と替り

天明三年十月廿七日 御用と

替りて方りて白銀三枚と替り

天明六年十月廿九日 御用と

幣りく芳何りくく白銀校と給る

同年十二月十二日未と未年

種姫君紀藩(清樂入り清用と命)

あつらひ

天明七年十月十二日

種姫君

沖條女御

蓮光院君(清用と幣りて芳何り)

くく白銀校と給る

同年十二月廿七日

種姫君清樂入り清用と幣りく

芳何りくく白銀校と給る

寛政元年八月晦日死字千一景

安永六年十月廿八日

明和六年八月廿三日

拂子納戸

町野忠重三郎

小菅清組收野内直光配

音字依町野忠重三郎

安永六年八月三日新納戸松平大膳亮組

安永六酉年六月十八日

安永七酉年六月六日

拂方清納戸

難波田舎屋の意道惣領
小普請組永井監物支配
番手 難波田舎屋意道
六右

寛政元酉年二月晦日清誕生納戸と

扱ふ(炎作と霧中)三月廿七日

淑作君清誕生九清用と替りしと

白根三と替りし

寛政元酉年二月十四日一面清納戸

安永六年十月晦日

元方湯納戸

梅垣友左の豊章奉子

大は昔永井信隆と組

二百俵 稻垣平吉豊隆

政平四郎

安永九子三年三月十日吉原湯納戸の湯納戸と勢一とと白浪地と組

天明二寛年八月廿六日 御座湯代官

同年十二月 日海月二百俵奉子との

二百俵ハクニ一奉子

天明七末年八月

公親院君湯納戸乃と奉子

感念等しては施の承のしり書
天明八年三月三日但馬播磨守
の國(場)右者但馬の國生野陣屋
しり書浪山と記と人官とまき
寛政九年作列西の系邪上原
村外五ヶ村輪取捨しり書と書
寛政十一年書ふまゝしり書
然と先まゝしり書ふまゝ

安永七戌年十二月六日

拂方河納戸

二言儀 幸郷九郎 恭頌

幸郷九郎 恭頌 幸郷九郎 恭頌

天明三年六月三日 外居 死 享年 六

安永八庚年二月十六日

拂方沖納戸

言儀 富永常存 藤原泰

富永官内正者養子
西鬼沖納戸

天明元五年六月廿四日西九沖納戸組氏

天明七年年同十月廿日沖本城(蓮光)

拂方沖納戸組氏

天明七年年六月十日

種姓者

沖線外氏

蓮光院君乃沖用とてしめ

芳行の白根の放のとのと

天明八年七月廿五日所白根

用城の芳行のとのと白根

放のとのと

寛政元酉年三月十七日所

白根のとのと

同年十月九日

沖基所

淑非君の所

蓮光院君の所と勢のとのと

白根の放のとのと

寛政二年十月十四日所

緒清周代の所の事

芳行のとのと白根の放のとのと

寛政三年十月廿九日所

安永八亥年四月十六日

拂方清納戸

和田主税惟英

和田主税惟英

西九納戸

天明元丑年八月廿四日西九納戸組既

天明六年三月十九日

沙路如採乃沙利と勢めく方行と

白浪組と好

天明六年十月廿七日西九納戸組既

ら道之方沙納戸組既

天明七年十一月十二日

後妃君
御孫女孫

運光院君の御用と兼務あり方なり

とて白浪と名なり

寛政元年十一月九日

御書所

淑姫君

運光院君乃御用と兼務あり方

とて白浪と名なり

寛政二年四月三日御書所切子

御書所

文化九年十一月三日老孫君金三

孫り水野伯耆守之丞入

安永八美年二月十六日

拂方清納戸

南條左所存隆貞三男為領
西条清納戸
旨右南條左所隆為

天明元丑年正月廿四日西九親清納戸

安永六年四月廿六日

拂方沖納戸

長崎海軍元貞養子

西元沖納戸

三音石長崎源三郎元貞

天明元五年正月廿七日親西元沖納戸

安永八年閏月十六日

拂方沖納戸

天野名公卿系盈養子
西尾沖納戸
音儀 天野左京大夫貞

天明元五年六月廿六日西九拜沖納戸

安永八亥年四月十六日

拂方河納戸

二重儀井上仲助長後

井上角左衛門長不忠从
西尾河納戸

天明丑巳年十一月廿九日河原末の河

用公替りて白浪と改り

天明七未年十一月三日河原末

替りて白浪と改り

川年十二月十九日

姫君河原婚し河原末命を

寛政元年二月十六日

法堂所法婚姻の法用と誓し

白浪此と好

同年十二月九日法堂教し用と誓し

白浪此と好

寛政四年二月十日 新法納戸

安永八亥年四月十六日

拂方新納戸

言儀大業亮人祐長

政通

天明元丑年六月廿日西元法納戸

大業信長祐祥養子
西元法納戸

安永五年四月十六日

拂方沖納戸

茶倉内記正良為領
西丸沖納戸
百十歳茶倉茶倉正明
二年

天明元五年正月廿日西丸新銀沖納戸

天明元五年八月八日

拂方沖納戸

佐東平扇正房若原
大津藩青木甲斐守組
左儀 佐東若原義行

同日是也凡通了百平儀

一作

寛政拾五年閏二月十日
任 一圓勢沖納戸

天明二寛年七月十日

天明二寛年七月十日

拂方沖納戸

水野右衛門作兼三様子
上常陸守菅原左衛門正光配
三百年石水野車右信之
軍筆書

政友堂

天明六年七月十日江戸川の出水に

小日向飛騨橋の跡水よりより八月

廿五日金おと賞一 始

寛政元四年二月晦日沖誕生の所用と

命出らるる八月十七日

淑姫君沖誕生の所用と替りて是方

とて白銀板と為る

寛政二十一年閏二月十日 勢沖納戸

天明三年八月日

拂方沖納戸

鎮目市左馬路惟敬彌孫系組
法目長左馬路惟種為願
大河卷西州若狭守組
言依 鎮目市左馬路表

寛政二十一年閏二月十日 勢沖納戸

天明三年十月六日

拂方沖納戸

下田孝定 高房 養子
大御番 左衛門 下野 守組
三首儀 下田孝十郎 等 共

寛政元四年七月廿日 父 共 知 事

少 下 不 入 料 同 一 々 々 公 遣 海 守 符

寛政二四年六月廿日

沖 延 生 凡 沖 用 々 令 せ ら せ 十 月 十 九 日

淑 非 君 沖 延 生 乃 沖 用 々 務 事 々 々

芳 乃 乃 々 々 白 銀 七 枚 々 々 々

寛政四子年 同 二 月 十 日 二 箇 沖 納 戸

天明七辰年六月廿六日

明和六年十月廿七日

拂方沖納戸

过十次所久暢惣領

小菅清組永井監物克配

七音人 过 主水久維

寛政元年閏二月十日 一圖 勢 沖納戸

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the date '天明六年八月廿日'.

天明六年八月廿日

毎正九子年三月六日海月

拂方淨納戸

松平重直の宗員長子
小菅清組長谷川利十郎支配
首正七條 松平清直宗卿

同年七月十七日申取大木八月廿日金銀
と貸し給ふ

天明七年八月廿日牛清真下少く
馬川渡り河原に寺先出
雨天少く延し九月二日暮
長しと冷氣にふりて上流乃
延し是迄日ありと云ふ

しつ列の法旨よりうへ黄金校

天明八年八月廿五日新洲藩禁固修理亮組

と

天明六年八月十日廿日

拂方納戸

三百年
西九月内
我智半席通英

天明八年八月十日御入在信主膳美記

寛政六寅年正月七日病

私く自報云々
五十四五五

天明六年辛酉 十月廿日

拂方沖納戸

茶倉内記正良為領
西沖納戸
看土儀
二年辛酉
茶倉茶葉之由
天明

天明七年辛酉 十月廿日

種作表

沖縁女様

蓮光院君の御用と為替り

白銀三と為替り

寛政三戌年十月九日

沖基所

淑姫君乃沙方

蓮光院君乃沙方と勢りく方なりと

白浪三と勢り

寛政元年二月十日 勢 沖納戸

天明六年十一月廿日

掃方沖納戸

西山勅書(景徳忠从
西丸(沖納戸)

言儀 遠山松平景賢

政三(沖納戸)

天明七年十一月十二日

種姫君

乃縁女様

蓮光院様乃沙方と勢りく方なり

白浪三と勢り

寛政元年十一月九日 乃縁女様の

乃縁女様の乃沙方と勢りく方なり

寛政二年十月十九日沙汰生

のしりて勢ありて白浪と名

寛政四年三月十日白浪納戸

天明六年十月廿日

拂方納戸

河原長三郎恒巻願

西条納戸

音宗依河原長三郎春之

後北後守

天明七年十月十日

種作君礼沙方

沖根女梅

沖根屋乃沙方沙用と替りて方何

〜白浪と名

寛政元年十月九日沙汰生

替りて方何〜白浪と名

寛政三庚年十二月廿日

彰君の方沖下向曾姻此沙用と

替りて方沖下とく白銀七と給ふ

寛政三庚年閏二月十二日 替 沖納戸

天明六年閏十月廿日

拂方沖納戸

近江守齋の徳氏惣領

西九沖納戸

三首依近江守齋永秀

寛政元酉年九月廿日死

天明六年辛酉十月廿日

榑方沖納戸

佐々木金次郎正秀為領
西本沖納戸
九首名佐々木正屋

寛政元酉年十月九日

沖屋新

淑作君

蓮光院君の沖屋と替りく芳行

しんく白銀板と給家

寛政元酉年十月十日
一箇
替沖納戸

天明六年壬午閏十月廿日

榎方沖納戸

朝臣宗三勲昌堂養子

西本沖納戸

三番依朝臣新三郎正輝

改新十郎

寛政拾年壬午閏二月十日 勢沖納戸

天明六年年周十月廿日

拂方沖納戸

遠近希之忠 後康之養子
西九沖納戸

名 遠近希之忠 易全

後 公卿

天明七年年正月廿三日新沖納戸天野沖波等
組

山

1

山

山

